

「アイルランドにおけるアーツ・アンド・クラフツ運動の思想的先駆者としてのオスカー・ワイルド」

本発表では、オスカー・ワイルドの母国アイルランドで発展したアイリッシュ・アーツ・アンド・クラフツ運動の揺籃期に着目し、彼の芸術観や社会観、また女性観がこの運動に対していかに先駆者的役割を果たしえたかを検証する。

ワイルドが1882年からアメリカを皮切りに行った講演活動は、社会主義的な経済活動における美意識の改革というアーツ・アンド・クラフツ運動の基本理念への意識を国際的に高めた。対して、1840年代のジャガイモ飢饉による困窮がまだ残るアイルランドにこの運動が入り組織的に始動したのは1894年と比較的遅く、それまでにワイルドは既に約20年間ロンドンの文壇で活躍し、翌年には同性愛疑惑の罪により服役し公の場から遠のいていた。しかも彼は、20世紀の到来を前にパリで没したため、その後約10年以上かけて母国の工芸美術が発達する過程を見届けてもいない。

しかしながら、彼の持っていた社会や芸術に対する理念が、独立心と博愛精神溢れる女性達の手によって「Cottage Industries」と呼ばれるかたちで実現されようとしたことは注目すべき点である。彼女達は、多岐に渡る手工芸をそれぞれに専門とする工房をアイルランドの各主要都市に立ち上げ、製品の製作から受注販売を通じて、現地住民らの経済的自立を促した。こうした活動は、アイリッシュ・アーツ・アンド・クラフツ運動の前身となった。

なかでも、Alice Ernest Hart 夫人の創設した Donegal Industrial Fund は活動期間こそ短いものの、かつて栄えた織物製造業の復活に成功し、独特な刺繍装飾「Kells Embroidery」を開発し、アイルランド独自の装飾デザインの可能性を広げた。それはまた、ワイルドが編集責任者に就き Hart 夫人が秘書を務めたこともある女性雑誌 *Woman's World* に掲載されたことで認知度を高めもした。Donegal Industrial Fund 運営のために精力的に奔走した婦人の姿は、ワイルドが考えた理想的な女性の役割をある意味体現したものといえるのではないだろうか。雑誌編集者としてのワイルドの活動、同時期に発表された彼のエッセイや論考から窺うことのできる、その社会観、芸術観、そして女性観が、独立を目指す母国の文化運動の中にどう反映されていったかを考察してみたい。